

令和4年度 事業所目標

令和4年2月14日作成

| | | |
|---|------------------------|--|
| 1 | 初期支援（はじめのかかわり） | 事業所にてインテークを行う職員が限定されている事で、情報収集の機会が少なくなっている。計画作成担当者と介護職員1名（可能な限り全員が1回は当たるように）で最初の情報収集を行うことで、必要な情報を理解し、柔軟で素早い対応ができるようになっていく。 |
| 2 | 「～したい」の実現 （自己実現の尊重） | ご本人の目標を意識して、日々の業務に取り組むことができるように①毎週のカンファレンスでライフサポートプランを用いて利用者の振り返りをする。②担当職員を中心に、ライフサポートプランの定期的なモニタリングを実施していく。 |
| 3 | 日常生活の支援 | 痰吸引未経験者には3号研修を順次受講させ、医療的ケアの知識を向上させる。新規利用者受け入れ時や状態変化時に対応した介護技術は毎週のカンファレンスを利用して技術伝達を行うほか、必要に応じて勉強会を実施する。 |
| 4 | 地域での暮らしの支援 | ご本人が関わるその他の公的サービスや、社会資源について、事業所職員がその内容を把握し関係を築いていく事が出来るようになる。 |
| 5 | 多機能性ある柔軟な支援 | ご利用者の生活のニーズの把握に努める事で、必要となるサービスを予測しスムーズに対応が行えるようにしていく。また不必要なサービス提供とならない様に、毎週のカンファレンスで支援内容を整理させていく。 |
| 6 | 連携・協働 | ご利用者の急変等の緊急時にも担当職員や計画作成担当以外の職員でも即時に対応が行えるよう、ご利用者毎に、医療情報の整理を行う。また、他の事業所への連絡が適切に行えるように個別の連絡網を整理する。 |
| 7 | 運営 | 法人他施設の取り組みを可視化して共有し、同時に事業所での取り組みを報告する事で、客観的な評価をもとに各職員の運営に携わる意識を高める。 |
| 8 | 質を向上するための取り組み | リモートでの研修受講が受け身になりがちである事から、職員が講師となり研修を執り行う機会を持つ事で相互の理解をより深めていく。 |
| 9 | 人権・プライバシー | 権利擁護について理解を深める研修などを実施するほか、ご利用者に不利益となる契約や、知らない為に損をする状態とならないよう、生活の場における情報収集に努め、必要に応じ成年後見人制度や、日常生活支援事業と協働し対応を行っていく。 |

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | |
|------|----------------------|-----------|-------------|
| 法人名 | 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 | 代表者 | 理事長 浅野信之 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護事業所桂坂 | 所長 管理者 | 浦川良太郎 |

| | |
|-----------|--|
| 法人・事業所の特徴 | <p>「くらしに笑顔と安心を」の理念のもとに、京都市に多種多様な介護事業所を持つ法人である。</p> <p>事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、洛西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築を進めていく。また、地域との関係性を大切にしながら、利用される方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。</p> |
|-----------|--|

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する 取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|----------------|--|---|--|--|
| A. 事業所自己評価の確認 | 9項目の自己評価から、課題を抽出し具体的な目標設定を行った。 ※別紙参照 | 9つの取組み結果、できている点、できていない点を参照願います。 | <p>○職員の自己評価で、虐待は行われていないのに、一人だけあまり出来ていないという意見がある。 →(事業所より)個人的な視点で自己評価を行っていますので、自身ではもっと尊厳を大切にしたいという回答でありました。</p> <p>○各実施項目でほとんどの項目が「なんとかできている」の評価である。皆さんの努力の結果と思います。 ○どの取組みもしっかり取り組まれていると思います。職員の方の努力がみられます。 ○適切に評価できていると思います。自己評価からコロナ禍において地域との関係を持つ事が難しい中、ご利用者への支援やチーム内での連携に重点的に取り組まれてきたのだと思います。具体的な改善計画が定まっているため実行していただければと思います。 ○個人チェックの定量評価から見える「よくできている・なんとかできている」の計と「あまり出来ていない・ほとんどできていない」の計でのネガティブ項目が重要な次回改善計画なのではないかと思います。その意味で、次回の評価時に集計数字が「よくできている」へ向けて改善が図られることを意識して目標を設定されたほうがより具体的な改善計画になるのではと思います。今の目標もよく考えられていてよいのですが、定性的な面が強いのではと感じました。</p> | <p>別紙のとおり、抽出した課題をもとに目標を定めて一つひとつ改善していきます。 ※別紙参照</p> <p>また、来年度の職員自己評価については、評価の狙いや視点を再周知し、同じ観点から評価できるようにしていきます。</p> |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 清潔で明るく親しみやすい事業所となるよう、引き続き、花壇の活用と清掃を行います。 | 昨年、野生動物(サル)からの被害もあり、野菜作りは中止としましたが、本年はひまわり等の「見て楽しめる」植物を育て、環境改善に取り組みました。 | <p>○外の花壇も大事ですが、部屋でできるみんなで楽しめる取り組みを考えたいです。 ○花壇活用は周辺に向けても良い効果があり、いつも玄関周りが清潔で良い環境を維持されていると感じています。 ○動物からの被害、残念でしたね。それだけ自然がいっぱいというわけですね。ひまわり咲くのを楽しみにしています。 ○継続して環境の改善に努力してください。 ○いつも清潔に保たれていると感じます。きれいな植物があることで、みて楽しんだり和やかな気持ちになることはもちろんですが、利用される方の話のネタにもなるので、継続していただければと思います。</p> | <p>・活動の一つとして、希望する利用者と共に四季ごとの植物の育成を行います。</p> <p>・感染予防対策の観点も含め、毎日の清掃及び消毒をチェック表を付けて実施します。</p> |
| C. 事業所と地域のかかわり | コロナ禍でできる活動が制限されていますが、交流スペースの貸し出し、地域各種団体とのかかわりなど、状況を想定しながら、計画的にかかわりを持てるようにしていきます。 | 地域交流スペースの再開はまだ予定できていませんが、制限付きではあるものの、地域で行われるようになった集会やケア会議に参加できるようになり、交流を図っています。 | <p>○コロナ禍で地域との関りも少ないので何もわからないです。これからもまだまだかわりはないような気がします。 ○コロナ禍での活動は大変でしたが、やはり生命が大事。地域との関りもよろしく願います。 ○コロナ禍であり制限が多い状況が続いていますが、将来的に希薄な関</p> | <p>・コロナの感染状況に応じて段階的に交流スペースの使用を再開していきます。</p> <p>1) 新たな感染増加がひと月以上なく、引き続き</p> |

| | | | | |
|-------------------------|---|---|--|---|
| | | | <p>係にならないように取り組むことが重要に思っています。</p> <p>○地域交流スペースは管理者側の考えを借用側に十分に伝えて再開してください。</p> <p>○コロナ禍において適切だと思います。まだまだ以前のような交流は難しいですが、感染状況を見ながら少しずつ関りが持てればと思います。</p> | <p>安定していると判断した時に予約受付をする。</p> <p>2) 当初は3階フロアでの鍵の受け渡しを行わず、接触を減らして実施する。</p> <p>3) 収束状況により鍵の管理を元に戻す。</p> <p>4) 感染再拡大では直ちに中止する。</p> |
| D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取り組み | <p>・利用者の要望として挙げられることを運営推進会議で取り上げ、地域の要望として他にもあるのか確認する。</p> <p>・地域包括支援センターと協働し、サービスにつながっていない利用者の見守りを行う。</p> | <p>登録ご利用者の自宅への訪問等、地域内を移動する機会が多いことから、その中で相談を受けたり気になる方がおられた場合、主に地域包括支援センターに問い合わせや報告をするなどの活動を行っています。</p> | <p>○様々なサービスを常に連携しようと思われ姿勢があり、その姿勢が協働に結び付いていると思います。</p> <p>○私も「地域包括支援センターへの「つなぎ」をしていただきました。</p> <p>○民生委員としてですが、地域包括支援センターと共に、いつもお世話になっています。これからも助けてください。</p> <p>○報告いただけて助かっています。報告いただけた後に支援につながったケースもあります。</p> | <p>・地域包括支援センターのランチ機能として力を発揮できるように、小規模多機能の役割に関する勉強会を実施します。</p> <p>・当事業所の運営にとどまるのではなく、地域の介護力向上に向け、事業所間の連携や会議等において役割をもって参加します。</p> <p>・利用者の暮らしに応じて、地域の商店等と連携します。</p> |
| E. 運営推進会議を活かした取り組み | <p>運営推進会議の開催方法をITを用いるなど検討し、参加の少ない家族等も参加しやすいような働きかけを行う。</p> | <p>運営推進会議の開催が十分に行えない状況ではありましたが、書面でのやり取りが主体となることで、これまで直接出席できなかったご本人、ご家族からの意見を伺う機会となりました。</p> | <p>○今は会議といっても、報告の書類だけを見ての進行なので、意見も出しづらいです。</p> <p>○ピンチをチャンスにする意識が今までできていなかったことをできるに変えることができているんだと思います。大変な状況ですが、広く多く意見がもらえる状況ができていることは素晴らしいと思います。</p> <p>○書面でのやり取りがほとんどで大変だったと思いますが、推進会議はそれなりの成果を上げたと思います。</p> <p>○ZOOM 会議も、連合役員会議などで経験しましたが、書面でのやり取りも書きやすいかもしれませんね。</p> <p>○コロナ禍において適切だったと思います。出席となると難しい方でも別の形で参加ができれば広く意見がいただけると思います。</p> | <p>・感染状況が落ち着いた後も、対面会議と並行してZOOMでの参加もできるように(有料会員になる必要がある)仕組みづくりを検討し、利用者や家族の参加がしやすいようにします。</p> |
| F. 事業所の防災・災害対策 | <p>非常時に備え、消防互助会にて、各事業所の規模、人員配置、施設見取り図等の情報を共有する。</p> | <p>感染予防研修への参加の他、コロナ禍における自然災害の対応についても議論を進めることができました。次年度はBCP(災害後の事業継続計画)の作成に取り掛かります。</p> | <p>○実際、災害が起きたときはやはり心配です。非常時に備えてもらっているのは分かります。</p> <p>○全世界での感染症対策の高まりで、学ぶことや実践していくことが重要な1年であったと思います。まだまだ続きますが、息切れしないように努力を続けていきたいと思います。</p> <p>○地域の他組織も同様な問題を抱えていると思いますので、それらの動きに乗るのも一つの方法だと思います。</p> <p>○冬に入って火災が多く発生しています。非常時に備えてコロナ禍における自然災害の対応が必要とされますね。</p> <p>○令和6年度からBCP策定の義務化に向けて、関係機関と協働しながら策定にとりかかれればと思います。</p> | <p>・災害対策委員会を設置し、BCP策定にとりかかります。</p> |